

# あいさつで町元気に

雫石中（藤沢崇校長、生徒368人）と雫石高（佐々木佳史校長、同72人）の生徒会は、合同でのあいさつ運動を本年度から本格化させた。雫石町内に1校ずつの中学校と高校がタッグを組み、互いに刺激し合いながら地域に元気と活力、笑顔をもたらす。

「おはようございます。朝のよしゃれ通り商店街に、マスク越しでもはつらつとした声が響き渡る。運動2日目となった13日は中学生18人、高校生13人が参加。午前7時半ごろから商店街周辺の2カ所に分かれ、雫石中の横断幕「目を見て元気に挨拶をしましょう」や、雫石高の校訓「点滴穿石」などのぼり旗を手に、登校中の小中高生や行き交う車にあいさつした。

雫石中学生徒会長の藤本絃希さん（3年）は「高校生は移動が機敏で、模範を示してくれて目指す姿が具体化された」と感謝し「これからも一緒に雫石を明るくしていきたい」と願った。

同日、生徒会長に決まった雫石高2年の山内日和さん

## 雫石中高の生徒会

# 連携した運動本格化



商店街の街頭に立ち、元気よくあいさつ運動を展開する雫石中と雫石高の生徒

んは「中学生がとても元気連携を図ろうと、昨年度で、自分たちも身が引き締まってきたと思う」と効果をかみしめ「学校をいろいろな人に知ってもらいたい」と発信の強化も見据える。藤沢校長は「中高生が連携して、町に元気と笑顔を展開しているが、約400人と近接する中高の

※岩手日報 2021年7月14日付

※この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。

あいさつ運動で町元気に中高合同あいさつ運動

岩手日報記事（七月十四日）より

（高橋美恵）